

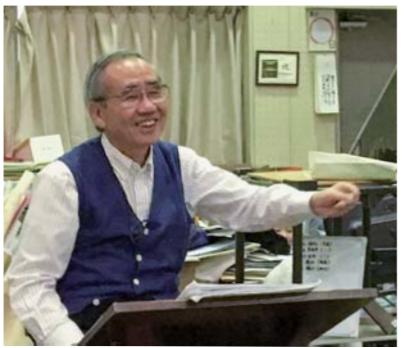
ブレンドされた豊かなバンドのサウンド

大阪府立淀川工科高等学校名誉教諭・吹奏楽部顧問 丸谷明夫氏 に聞く

その芯となるのはクラリネット



10SII☆、アルテア、そしてプレザンスが淀工の愛器として演奏され続けている



「サウンドの芯にクラリネットがある
とすごくいいですね」と丸谷氏



Présence
セルマー・パリ クラリネット
プレザンス

・調子:B♭/A
・ピッチ:442Hz
・バレル:65.5mm
・銀メッキ・キー
・可動式右手親指掛け
・パッド:バレンティノ
・ブルースチールスプリング
・プレザンス専用ケース・
ケースカバー付
・マウスピース:セルマー・パリ
・リガチャー:セルマー・パリ

B♭: ¥440,000(税抜)
A : ¥490,000(税抜)

SELMER Paris サイト
www.nonaka.com/selmer/

総輸入元 野中貿易株式会社
〒231-0011 横浜市中区太田町4-46
総発売元 株式会社ノナカ
〒231-0011 横浜市中区太田町4-46

高校吹奏楽界の勇、淀川工科高等学校吹奏楽部を長きにわたって指導されている丸谷明夫先生、生徒への愛情あふれる指導と、独自のサウンドづくりには他の追随を許さないものがある。伝統の「淀工サウンド」の秘密について丸谷先生にお話をうかがった。

ごまかさないで、自分の思いを、
息を、クラリネットに
しっかりと吹き込んで

——淀川工科高等学校吹奏楽部の音、淀工 心に置いています。

サウンドについて先生はどのように考えてつくられているのでしょうか。
丸谷 各楽器のいいところが一体になった音を求めています。ブレンドされた音がいい。そして、クラリネットはサウンドの中につくられています。クラリネットがしつかりとした木管の音がほしい。そうすると吹奏楽のサウンドが落ち着くんです。サウンドの芯というか、真ん中にクラリネットがあるとすごくいい。

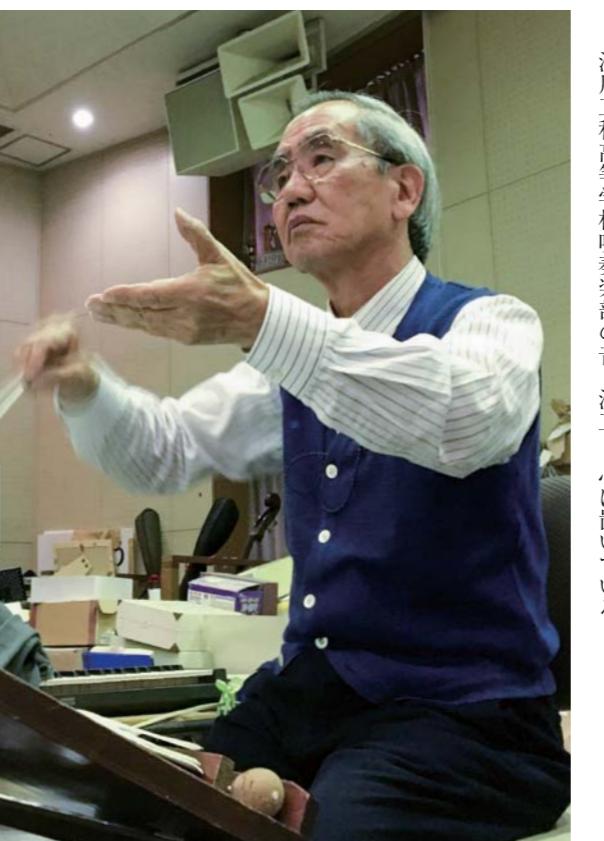
——実際、淀工の音はどんなにでもクラリネットがしつかりと聞こえてくるのです。が、とかくクラリネットには「もつとソフトに吹いて」と指導されがちで、しつかりとした息を吹き込むのではなく、口先でそーっと息を入れるような吹き方をしてしまいがちですが。

丸谷 クラリネットをごまかさないようにしたい。自分の息を、自分の思いのとおりに音にできるのが吹奏楽器のいいところじゃないですか。暖かい息、冷たい息を使分けたりすることは人間にしかできない

——弱い息でアラを隠してばかりいるので音をとおして表現できるというのは素晴らしいことですから。

丸谷 は、奏者の思いを音にすることができるない。

——私は我々の考える音楽ではあります。クラリネットをとおしてどう表現したいのかが大切。誰かに合わせるというのではなく、自分自身のしつかりとした息



伝統の「淀工サウンド」を紡ぎ出す丸谷明夫氏

初心者にも、
じっくりと成長するのを待つて
答えを急がず

より洗練されてきた

プレザンス
ラヴエル作品での効果も楽しみ

——セルマー・クラリネットについてはどういう印象をお持ちですか?

丸谷 「よく練習したらよく応えてくれるクラリネット」という感じかな。吹き手に正直な反応をしてくれるクラリネット。

——アルテアと比べてプレザンスはどうですか?

丸谷 アルテアもいい楽器ですが、プレザンスはより美しい音がするなど直感しました。音がよくブレンドし、倍音もさらに豊かになっていて、とにかく音が美しい。——淀工ではラヴエルの作品をよく演奏されますが、たとえば「ダフニスとクロエ」や「スペイン狂詩曲」などではどんな効果が期待されますか?

丸谷 ラヴエルは「音の魔術師」と言われ、色彩感を表現することが重要で、かつ弦楽

——具体的に、たとえば55人で合奏をする場合、クラリネットは何人ぐらいいるべきことになるので、クラリネットはとても重いお考えでしょうか。

丸谷 曲によって変わりますが、たとえばハープやチェレスターが入る曲だとどうしてえてくれるか、とても楽しみです。

